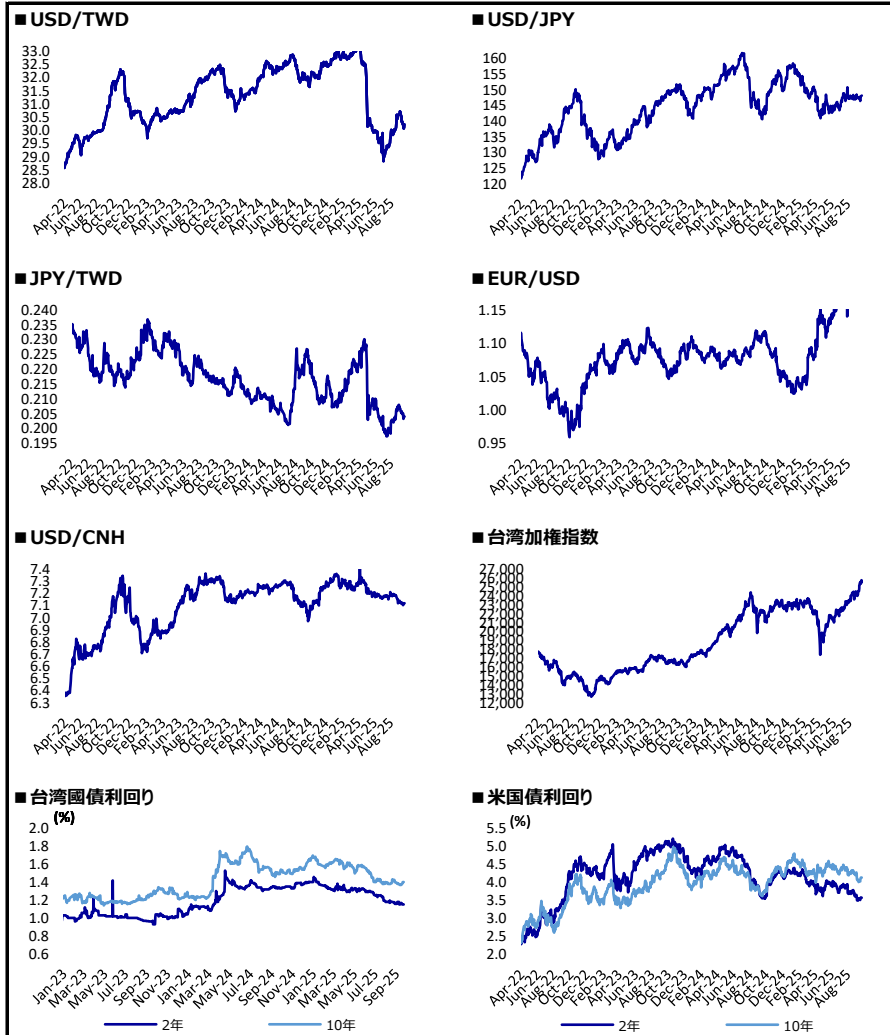


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のUSD/TWDは下落。週初9/15、30.290でオープン、午前中は閑散取引の中に小動き。午後には台湾株式市場は下落したものの、米利下げに対する期待感が高まり、USD/TWDは下落、30.228でクローズ。9/16、台湾株の上昇に伴う資金流入に加え、米利下げに対する期待感も強く、終始ドル売り優勢の展開、30.101でクローズ。9/17、ドルの続落が輸出企業の売りを誘い、一時30価格割れまで下落。その後は台湾当局によるポジション調整で反発し、30.065でクローズ。9/18、市場の予想通り米FRBは利下げを発表。輸出企業のドル売りが先行し、一時30.036まで下落したものの、材料出尽くしの声もあり、引けにかけてドルは反発し、30.107でクローズ。9/19、台湾株は高値圏に対する警戒感から、外資を中心に売り優勢の展開。また、アジア通貨の下落も材料視され、30.20価格台まで反発。最終的には前週比0.09%ドル安台湾ドル高の30.220でクローズ。週間の外国人投資家の株式買い越し額は202.24億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のUSD/JPYは上昇。週初9/15、147.77でオープン。東京休日且つ材料難の中で147円台半ばでの揉み合いとなった。9/16、米利下げに対する期待感が高まり、USD/JPYは上値の重い展開。9/17、FOMCは予想通り▲25bp利下げを決定したが、ドットチャートで年内2回の追加利下げが示された点などが市場の織込み対比ハト派と受け止められ、週安値となる145.50円まで急落。ただ、パウエルFRB議長の会見を受けてすぐに買い戻され、147円ちよど付近へ。18日、ドル反発地合い継続、米雇用関連指標の良好な結果に米金利が大幅上昇し148円台へ。19日、日銀は政策金利維持を決定したが、2名による+25bpの利上げ支持、ETF等の売却決定が円買い要因となり、一時147円台前半急落。円買い一巡後は、植田日銀総裁会見でも早期利上げに向けた示唆はなく148円ちよど付近まで反発。最終的には前週比0.20%ドル高円安の147.95でクローズ。

■ USD/TWD 予想レンジ：29.900-30.400

今週のUSD/TWDはレンジ推移となる予想。FOMCは予想通り▲25bp利下げを決定し、今回の利下げをリスク管理と位置づけた。海外市場ではドルが堅調に推移している中、台湾ドル売りがやや優勢となりやすいだが、台湾株の調整が一段落であれば、ドルの上値も限定的か。

■ USD/JPY 予想レンジ：146.00-149.50

今週のUSD/JPYはレンジ推移となる予想。日銀は政策金利維持を決定。一部委員が現状維持に反対したものの、トランプ関税などの日本経済への影響を巡る不確実性を指摘しデータ見極めスタンスを維持している中で、追加利上げのタイミングは未だ不透明。今週の焦点は政局に移り、財政規律の声が高まれば、円売りは限定的に留まるだろう。

今週の予想

9/22 (MON)	台湾8月失業率
9/23 (TUE)	日本市場休場、米4-6月期経常収支、米8月中古住宅販売件数、台湾8月輸出受注
9/24 (TUE)	米8月新築住宅販売件数、台湾8月鉱工業生産
9/25 (TUE)	米8月耐久財受注、米4-6月期GDP確定値
9/26 (TUE)	9月東京都都区消費者物価、米8月個人所得・個人支出・デフレ率

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。